

項目	①自校方式			②給食センター方式			③親子方式		
	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
衛生管理	ドライ方式・施設設備が新しい。衛生管理が充分。	施設更新が順次に必要となり、学校間で差が出る。		エアシャワーなどの機械等の設備があり、ドライ方式施設で衛生管理が充分なされている。	食中毒の被害の範囲が大きくなる。		食中毒の広がりを抑えられる。	衛生面で一元管理ができないため食中毒の発生確率が高くなる。	
	食中毒発生時に自校のみになるので広がりが少ない。(食中毒特定対応できる。)	衛生面について学校ごとに差が出る。		衛生面について一元管理可能。	調理・喫食までの工程が多く、感染源が特定しにくい。		新しいシステム(ドライ方式)で作られるので衛生的に行える。	現在の小学校施設そのままでは衛生面がクリアできない(かなり改善が必要)。	
	真空冷却機があり衛生的においしい給食を提供できる。(自校方式だけの内容ではない)	衛生面で一元管理ができないため食中毒の発生確率が高くなる。		給食施設が1ヶ所に集中しているため、改善が対応しやすい。			センターに比べ食中毒の原因が特定しやすい。	現状給食室を利用する場合は被害拡大につながる。	
	食中毒の原因が特定しやすい。								新しい設備が必要(親子方式だけの内容ではない)。
									組合せがわからないうえ、数が増えると(特に親)感染源の特定が難しくなる。
									食器等の保管室が子校分を含めて必要。
適温提供・喫食までの時間	出来たての温かい給食が食べられる。			配送面、保温技術も高く、問題ない。	喫食2時間以内の衛生管理面の課題	温かいものが食べられるのか?	現在の保温技術では適温維持が十分可能。	複数校から届くとなると時間の調整が難しい。	その他 運力の確保が出来ず、運搬は専用車保温器具で行われるのか。
	校時に合わせた調理ができる。			保温(冷)食缶の使用で、むしろいい状態ではないか。	立地・交通事情等の影響で時間が読めない。	受け入れ体制(中学校内)について、十分に教育が必要。どの学年がどのルートでとりにいくかなど。	センターと比べると提供までの時間が短い(温かい)。衛生面でも良い。	交通事情等に影響される。	各クラスごとに分けられて配送されるのか、学校で分けるのか。
	交通事情等に影響されない。					校時に合わせた細かい調理が難しい。	配送距離にもよるが温かいものが運べる。	給食センターのような保温できる器具が使えるのか。無ければ時間がかかるので難しいのでは。	親校と子校の決定方法を検討する必要がある。
	喫食時間を確保しやすい。							喫食までの時間に作れるか不安。	
								配膳方法やエレベーターの準備も必要では。	
アレルギー対応	食物アレルギーへの細かい対応が可能。	学校ごとにアレルギー対応や人員の確保が必要。		アレルギー対応がしっかりできそう(部屋、人員の確保など)。	細かいアレルギー対応が難しい。		H29市のアレルギー対応マニュアルに沿った運営をH31~完全実施の為、特に問題はない。	複数校から届く場合のアレルギー対応に漏れが生じないか。	小学校はマニュアルがあるが、アレルギー対応をどうするか。
	臨機応変に対応できる。			米粉による対応などきめ細かく効率的に管理できる。	アレルギー対応食に限られる。乳製品、卵のみ等。		センターよりも規模が小さい為、対応が細かくでき、保護者と密に連絡ができる。	給食センター方式よりもアレルギー対応について人数が増える為手間がかかる。	
	保護者と学校が直接連絡ができる。				保護者⇄学校⇄センター 連絡に時間がかかる。		小学校からの申し送りが細かくできる。	自校方式と比べて連絡調整に不安。	
							同じ学区の場合、連絡が取りやすいのではないかと。		
食育	各校の実態に応じた独自の取組を行いやすい。	学校ごとで食育の教育状況に差が出る。		市として同じ内容を統一して行うことができる。	数が多く、個々への対応は困難。	どこに立地させるかについて難しい検討が必要。・土地面 交通面	小中一貫ブロックを活用すれば、継続した指導が可能。	各学校によって様々になる。	栄養教諭の配置はどうなるのか。
	調理や処理など実際の様子を生で見られ、交流しやすい。	学校ごとに栄養士の確保が必要になる。		職場体験ができる。	栄養士が所属しない学校がある。	栄養教諭はどのように動くのか?	小学校から中学校まで継続した食育が可能。	親校となる学校ごとに栄養士の確保が必要になる。	
	栄養教諭等の配置ができ、きめ細かい対応ができる。			市内全域に効果的に食育活動を展開できる。		個々の学校の残食量の把握は可能。	現在小学校で行っている同じ方法が取れる。		
				親せる動線により調理・物流などの施設見学が可能になる。			親子=中学校ブロックに近いと考えられるので、小中一貫での活動が考えられる。		
							小回りができて食育等も実施しやすいのでは(小中連携)。		

項目	①自校方式			②給食センター方式			③親子方式		
	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
残食量の調整	クラスごとに残菜が把握できる。	一元的に把握と処理が出来ないため手間がかかる。		各学校ごとに把握は可能。	クラスごとの把握が困難。		各クラスで把握して調整ができる。	自分で管理していないので、調整が中途半端になる。	どの範囲(単位)で調整(確認)が出来るのか(クラス、学年、学校)。
	日々の残食量の情報からクラス毎の配膳量の調整ができる。			一元的に効率的かつきめ細かく把握できる。	残食量に合わせた配膳量が調整しにくい。			自校方式より人数が増える為、手間が増える。	どのくらいの学校数まで各クラスの残飯量を把握できるのか。
学校運営上の影響	時間の調整がしやすい	工事により長期にわたり学習活動に影響が及ぶ。		行事等の時間調節は配送順を変えて対応。	保管室の新設、配膳・昼食時間の確保(教育課程編成に絡めて)。		給食センターよりも行事などに対応しやすい。	小学校を親校とした場合、既存給食室の改修により、学校教育に影響あり。	食数増の小学校(親)の負担、責任はどうなるのか。
	各校で対応しやすい。	全校導入までの調整がむずかしい。		全校導入がしやすい。	配食の時間調整をすべての学校とできるか。		各教室前等一定の場所まで運んでおくことで時間の確保がしやすい。	親校となる学校に負担がかかる(日々の運営と施設管理、職員)。	
	運動会等、行事の時間に合わせて対応できる。	工事で個々の学校の授業やクラブ活動の中断が発生する可能性がある。		工事で個々の学校の授業やクラブ活動の中断をしなくて済む。	昼食時間アンケートから中学生の「短」がさらに・・・。			各学校でとりわける場合、場所と人数が必要では。	
	各教室前等一定の場所まで運んでおくことで時間の確保がしやすい。	工事中、周辺地域への騒音が生じる。			具体的な生徒の指導に不安。			自校よりも小学校の細かい行事などに対応しにくい。	
					工事中、周辺地域への騒音が生じる。			子校として車輛の出入りや部屋の管理など受入が複数回に渡ると対応が難しくなる。	
								工事中、周辺地域への騒音が生じる。	
								小学校を親校とした場合、多くの学校で大規模工事が必要になることが予想され、学校活動に影響が出る。	
教育環境への影響等	新しい用地を確保する必要がない。	学校の環境が大きく変わる可能性がある。		学校の環境を変えなくても良いので、施設面での整備が少なく済む。	施設用地の確保が必要。		自校と比べると工事等の影響が抑えられる	施設整備工事による教育環境への影響あり。	
		調理室等を作るためには現在の何らかの設備をなくすことになり、教育課程等にも影響。		施設整備工事による教育環境への影響が生じにくい。	配膳室の整備が必要だが、どこから搬入するかによって、教育活動の邪魔にならないか。		新しい用地を確保する必要がない。	配膳室の整備が必要だが、どこから搬入するかによって、教育活動の邪魔にならないか。	
		給食室までの動線の整備が必要。			配膳室までの動線の整備が必要。			給食室までの動線の整備が必要。	
		どこから搬入するかによって、教育活動の邪魔にならないか。						中学校と小学校、複数校の間で校時等の調整が困難になる。	
		生徒数は減少しており施設が過大なものにならないか。						昼食時間の変更が必要。	
初期経費・維持管理・運営経費	給食が提供できなくなった場合、1校の規模でおさまる。	1校のみでなく市内全校に、となったときに費用がかかる。		初期経費は大きいですが、後の運営経費は安くなるのではないかと。一元管理により維持・運営コストが低く抑制可能。	経費(アンケートから)→ニーズにあうものが可能か	小中一貫校は現在小学校しか給食出てませんが、中学校給食はどうしていいのでしょうか？	自校方式に比べて安価で済む。	食器保管スペースなどを確保する場所が必要となり高コスト。	小中両方に設備費がかかるが、それが安いのか高いかわからない。
		一校ずつ細かい管理が必要になってくる。		自校(小倉小)3億 センター(伊丹市)18億4700万 ↓ センター方式の方が予算が少なく済む可能性がある。	センターで給食提供できなくなった時、全校に対応しなければならない。		親を利用すれば初期経費は抑えられる。	親校も子校も給食室又は配膳室等の改修が必要になる。	自校と親子の管理費はどちらがかかるのか。
		中長期的にもコストを抑制できない。		最新の設備を入れられなくおさえられる。	初期経費が大きい。		小学校の給食室の改善を長期的に計画するならばメリットは有る。	維持管理・運営費が大きい(負担)。	
		10校分の整備をするので高くなる。			相当な大きさの施設が必要になる。			多くの学校で施設改善費が必要になり、既存の給食室を利用しないと家賃が掛かるのではないかと。	